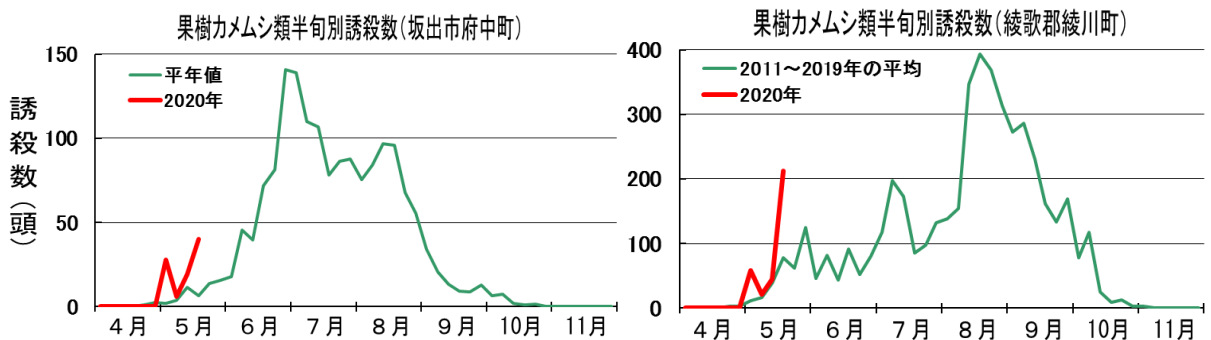


令和2年度 病害虫発生予察注意報 第2号

1. 病害虫名 : 果樹のカメムシ類(主にツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)
2. 対象作物 : モモ、ナシ、カキ、キウイフルーツ、ブドウ、カンキツ、ビワ等
3. 発生が予想される地域: **県下全域、特に山林隣接園**
4. 発生程度 : **多**

5. 注意報発表の根拠

- 1) 府中果樹研究所(坂出市府中町)の予察灯での5月第4半旬のカメムシ類(主要4種、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ)の誘殺数は平年の6.3倍(本年:40頭、平年:6.4頭)と多かった。
- 2) 農業試験場(綾川町)の予察灯での5月第4半旬のカメムシ類(主要4種、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ)の誘殺数は平年の2.7倍(本年:212頭、過去9ヶ年平均:77.6頭)と多かった。
- 3) モモでは既にカメムシの吸汁被害が確認されている。
- 4) 今後、活動が活発になり、県下主要果樹であるモモ、ナシ、カキ、キウイフルーツ、ブドウ、カンキツ、ビワ等で被害の多発生が懸念される。



第1図 府中果樹研究所および農業試験場の予察灯における主要4種の果樹カメムシ類の誘殺状況

6. 防除実施上の留意点

- 1) ナシ、モモ、カキ、キウイフルーツ、ブドウ等は、幼果期から被害を受ける場合があるので、有袋栽培では、できるだけ早く袋かけを行う。
- 2) 施設栽培の場合は、開放口をネット(4mm目合い)で覆うとカメムシ類の侵入防止対策となる。
- 3) 圃場内をよく観察し、被害果実やカメムシ類の発生が見られる場合は、早急に防除を実施する。特にスギ、ヒノキ等が周辺に多い圃場や、過去に被害が認められた圃場では注意する。
- 4) 多発してからの防除は効果が劣る場合があるので、発生初期の防除を徹底する。
- 5) 成虫は夕方に飛来し夜間加害するので、薬剤散布は夕方に広域かつ一斉に行うと効果的である。
- 6) 黄色蛍光灯は、チャバネアオカメムシには忌避効果があるが、ほかのカメムシ類には効果がないので注意する。
- 7) 防除薬剤は、地域の病害虫防除暦等を参考にする。

- 8) 薬剤の特徴は、有機リン剤は即効性だが残効が短い。合成ピレスロイド剤は残効が長く殺虫効果だけでなく吸汁阻害効果があるが、天敵に影響を及ぼすため連用するとカイガラムシやハダニ類が急激に増加することがあるので注意する。ネオニコチノイド剤は有機リン剤や合成ピレスロイド剤より殺虫効果は劣るが吸汁阻害効果があり残効も長い。
- 9) 作物によって、登録のある薬剤が異なるので、使用にあたってはラベルをよく読んで、登録の有無や収穫前日数、使用回数等使用基準を遵守する。

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>